

アンゲリア

ἀγγελία



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

「学部学生から率直な意見を聴こう!」という趣旨の基に、「学生さんとの懇談会」を、平成22年6月16日(水)全学共通教育棟1A講義室において開催しました。学生代表として、各学部(医学部除く)より1~3名の合計8名が参加してくれました。センター側からは、理事、教員、職員から合計11名が参加し、シラバス、授業内容、履修、修得単位数等に関して活発な意見交換が行われました。参加していただいた学生さんを代表して今回2名から寄稿していただきました。

教養教育推進センター 主催の懇談会に参加して

教育学部国語教育講座 3年 志知由加



今回の懇談会で心に残っているのが、「教養」について話して下さったことです。

私たちの世代は、高校時代も早々にして文理が別れ、受験に必要な科目だけを特化して教わってきました。先生方の高校時代は一通り学ばれてから受験に使う教科を選択したというお話も伺い、近年の大学生とは入学時点での知識量が違うということが、全学共通の授業を行う上での問題点になっていると感じました。たとえば、私の通っていた高校は2年生の段階で文系では世界史と日本史、理系では生物と物理を選択し、選択しなかった教科に関しては知識を持たないまま大学に進学することになります。また、岐阜大学では推薦入学の学生も多く、職業科の学校出身の学生もあり、高校時代に学んだことの方角性や質も様々です。その中で、各学部共通で教養を学ぶというのは、理念としては素晴らしいですが、文系と理系で学んだことが違うという現実に対応していなければ、学生から不満がでるのは当然と感じたし、「教養」の本質—それが何かはうまく説明できませんが—に到達するには大変な道のりがあると感じました。受験に対する勉強しかしてこなかった私たちは、勉強はつらく苦しいもの、何かを必死に覚えるものというイメージがあり、大学式の「考える」学習から『勉強』をする意義を見つけにくくなっているのかなということを思いました。

お話を伺っていく中で、私たちが全共を受けたときから、全共の様子もまた変わってきていると感じました。よりよい環境で学ぶことができる一年生をうらやましく感じると同時に、今、全共で授業を受けている学生の意見というも機会があれば是非聞いてもらいたいと思います。また私たち学生も、意見箱等の自分の意見を主張する場所はあるのに十分に活用できておらず、もっと活用していきたいと思いました。

全学共通教育について

地域科学部 2年 西川美喜子



全学共通教育の見直しに私は大変な期待をよせており、私の経験や友達から得た意見を、以下にまとめます。一番の疑問は、抽選です。全共では、人気のある科目は抽選になることがしばしばあります。その抽選基準を学生は知りません。自分のぜひ取りたい科目が抽選な場合、その履修は運に任せるしかないのでしょうか。選考基準は明確に提示すべきだと思います。

改善するのを感じた点ですが、科目により単位取得の難易度の差が大きすぎる点、文系学生にとっての自然科学系科目(またはその逆)は、本当の意味での初心者向け科目が少ないことです。

単位取得の難易度については、取得の簡単な科目は、認定単位を減らしてはどうでしょうか。単位認定方法や分野によって、難易度に多少のばらつきが出てくるのは当然ですが、「多少」と表現するにはひらきが大きすぎると思います。単位を取りやすいという理由のみでその科目に学生が殺到し、学習意欲のある学生が抽選にもれてしまうという事態が発生するのです。これは全共の理念にも反しているのではないのでしょうか。

初心者向け科目については、「初歩」「概論」科目については既修の学生より未修の学生を優先し、もっと名前に見合うような講義内容にすべきであると考えます。その科目に触れる機会がなかった学生でも躊躇なく履修し、真剣に受講すれば単位を認定されるようにして欲しいのです。

この二点は多数から同意見があり、早急な改善を望んでいます。

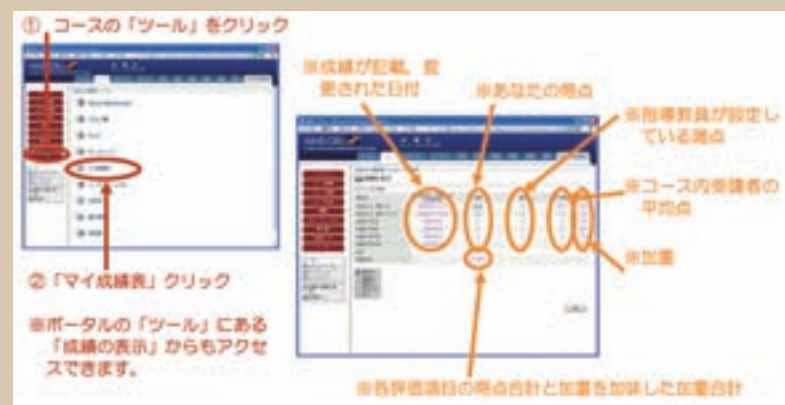
最後に、継続してもらいたい点です。興味のある科目を専門にとらわれず履修できるのが全共です。必須単位設定は専門以外の分野へ新たな興味が生まれる機会として、継続してもらいたいと思っています。

これからも、誰でも自分の興味ある分野を学べ、新たな興味を発見できるような全共であって欲しいと願っています。そのために、学生からの声を大切に、よりよい全共を目指してまいります。

よって制限されていますので、各自のパスワードの管理は厳重にしてください。パスワードの管理を怠って他人に知られてしまうと、第三者によるマイ成績表への不法なアクセスにつながりますので注意してください。

マイ成績表へのアクセス

- ①マイ成績表にアクセスしてみましょう。
- (1)いずれかのコースにアクセスし、左のメニューから「ツール」をクリックします。
- (2)右側の「マイ成績表」をクリックします。なお、AIMS-Gifuのポータル左上にある「ツール」メニューの中の「成績の表示」からも、各コースへの「マイ成績表」にアクセスできます。
- (3)図のように、画面右に日付、得点、コース内の平均点、加重、加重合計等が表示されます。
- (4)確認したら、画面右下のOKボタンをクリックします。



オンラインテストの結果の確認

- コースでオンラインテストが実施された場合、マイ成績表の得点をクリックすることで詳細な解答結果を知ることができます。同一のオンラインテストを複数回受けた場合も、同様に確認できます。過去に自分がミスしてしまった問題や、不得手な項目の内容などを洗い出し、復習や最終試験の際に役立てることができるでしょう。
- (1) いずれかのコースにアクセスし、左のメニューから「ツール」をクリックします。
- (2)右側の「マイ成績表」をクリックします。
- (3)表の中に表示されている得点の数値をクリックします。
- (4)複数回テストを受けている場合、毎回の得点が表の中に表示されます。
- (5)テストを受けた日時を確認し、その得点の数値をクリックします。
- (6)設問毎に自分の解答と正解、得点等が表示されますので確認します。



タスクについて

- タスクとは、課題・レポート、作業など、所定の期日までに行われる活動のことをいいます。コースによっては、受講期間内にさまざまなタスクが課され、AIMS-Gifuの中で設定されることがありますので、教員の指示にしたがって各自タスクの確認・処理を行いましょう。
- (1) いずれかのコースにアクセスし、左のメニューから「ツール」をクリックします。
- (2)右側の「タスク」をクリックします。
- (3)図のように、タスクの優先度、タスクの名称、ステータス(状況)、期日が表示されます。
- (4)タスクの名称をクリックすると、そのタスクの詳細が表示されます。ステータスが「完了」でないタスクは、ポータルのマイタスクに表示されますので、備忘録として活用できます。



AIMS Tips

No.4

“Tips”とは、コンピュータやソフトウェアなどを利用する上で役立つ「豆知識」や「小技」のことです。

「ツール」って何?

ツールの機能

個々のコースやコミュニティの中に、「ツール」というメニューがあります。今回はこのツールの機能のうち、「マイ成績表」と「タスク」について説明します。

マイ成績表について

「マイ成績表」とは、受講者がコースの中でいろいろな学習評価の結果を確認できるものです。AIMS-Gifuのオンラインテストが実施された場合には、自動的に評価の得点が計算され、確認することが可能です。成績項目については、テストはもちろん、課題・レポート、出席・学習態度等さまざまなタイプの得点項目が設けられ、個々に重みをつけて加算した加重合計として表示されますので、各自の成績評価の参考になります。

個人へのマイ成績表へのアクセスは、原則として、講義担当者と受講者本人のみとなっています。アクセスはAIMS-Gifuへのログインの際のユーザIDとパスワードに

編集後記



学生さんとの懇談会の頃には梅雨入りとなり、梅雨明け後からは例年になく長い酷暑を経験することとなりました。長く厳しい暑さだけでなく9月中旬に劇的に到来した涼しさには多くの人が安堵感を味わったことでしょう。キャンパスは後学期の講義が始まり、また賑やかさを取り戻しています。全学共通教育では、この後学期から新たに5つの就業力育成に関する講義が加わりました。人生観や職業観を確立できないまま卒業を迎える大学生や、就職して3年以内の離職率が以前と比べ高くなりつつあるといわれている昨年、皆さんが「社会人として生きる」ということを早い時期から意識し、自立した社会人として卒業できるようにと願って導入されたものです。一方で、日本経済の状況は依然芳しくなく、今夏のような厳しい環境の中、今年も就職活動シーズンがスタートしたようです。必ずやゴールがあると信じたいものです。

編集責任: 教養教育推進センター 副センター長 竹内 豊英